

作成番号:0207

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数 : 2024-207

\*\*\*\*\*

内容 : 日本人高齢者におけるスタチンの使用と認知症リスクとの関連は？

出典 : Association of Statin Use with Dementia Risk Among Older Adults in Japan:  
A Nested Case-Control Study Using the LIFE Study.

Journal of Alzheimer's disease : JAD. 2024;100(3);987-998.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38968046/>

\*\*\*\*\*

スタチン (HMG-CoA 還元酵素阻害薬) は、血液中のコレステロール値を低下させる薬物の総称である。これまでの研究ではスタチンの使用と認知症リスク低下との関連が示唆されているが、超高齢社会である日本において、大阪大学の研究者らは、65 歳以上の日本人高齢者を対象にスタチン使用と認知症リスクとの関連を調査し、Journal of Alzheimer's Disease 誌オンライン版 2024 年 7 月 1 日号に報告した。

2014 年 4 月～2020 年 12 月のレセプトデータを含む LIFE 研究 (Longevity Improvement & Fair Evidence Study) のデータを用いて、年齢、性別、自治体、コホート参加年のデータに基づき、1 症例を 5 対照群とマッチさせた。対象は、症例群 57,302 例および対照群 283,525 例、女性の割合は 59.7%であった。スタチン使用は認知症 (OR : 0.70、95%CI : 0.68～0.73) およびアルツハイマー病 (OR : 0.66、95%CI : 0.63～0.69) のリスク低下との関連が認められた。スタチン未使用者と比較した用量分析における認知症の OR は、【1 日当たりの総標準投与量 (TSDD) : 1～30】OR : 1.42、95%CI : 1.34～1.50、【TSDD : 31～90】OR : 0.91、95%CI : 0.85～0.98、【TSDD : 91～180】OR : 0.63、95%CI : 0.58～0.69、【TSDD : 180 超】OR : 0.33、95%CI : 0.31～0.36 であった。

日本人高齢者に対するスタチン使用は、認知症およびアルツハイマー病のリスク低下と関連しており、スタチンの累積投与量が少ない場合には、認知症リスクが高まるが、多い場合には認知症の保護因子となりうることが示唆された」。

